

花草木

【フユイチゴ】

フユイチゴ（冬苺、学名：Rubus buergeri）は、バラ科キイチゴ属の常緑性のつる性木本。つる植物のように匍匐^{ほふく}して地表を這い、高さはせいぜい30センチメートル。全体に毛があるがトゲは少なく、茎の節から発根^ふして殖えていきます。

花の時期は9月から10月で、葉腋から花茎を出し、穂状に花弁が5弁の白い花を数個つけ、晩秋から一か月かけて赤い果実がなり、11月から1月頃に熟します。いわゆるキイチゴの形で、食用となります。木苺としては酸味が強くイチゴ同様にビタミンCが豊富です。

多くの木苺類は夏に熟しますが、フユイチゴは冬に熟することが和名の由来であります。別名は「カンイチゴ」「クリスマスチェリー」などです。

フユイチゴの花言葉は、真心の愛、未来の予感、尊敬と愛情、甘い思い出、希望などです。



大阪で見つけたフユイチゴの果実

我が署のスタッフ 島根森林管理署

幸前 克昌 (こうぜん かつまさ) (令和5年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

経営担当として、収穫・計画・測定・立木販売業務等、幅広く業務に取り組んでいます。業務内容が多岐にわたり、事業の計画も作成するため、目先の仕事のみならず、今後の業務について考えながら仕事をする必要があります。担当業務知識の習得も勿論、多くの人と関わるため外部折衝能力も身に付けていきたいです。

【職場の雰囲気は？】

島根署は仕事に真摯に向き合っている方が多く、各担当が仕事に熱意をもって取り組んでいて、わからないことがあれば上司、後輩を問わず、丁寧に教えてくれるため、業務を進めやすいです。

また、島根署は合同庁舎内にあり、合同庁舎は比較的新しく木目調の内装のため落ち着いて仕事ができます。

【林野庁の魅力は？】

署の業務はデスクワークとフィールドワークのどちらも必要なため、机上の知識だけでなく現地の知識も業務を通じて習得できる点が魅力だと感じます。自然や森が好きな方にはぴったりだと思います。



地上型レーザースキャナー OWL を使った署内研修の様子
おおしど 大志戸国有林（雲南市）

森林事務所等紹介

西城森林事務所 (広島北部森林管理署) 森林官 峰村 裕一 (みねむら ゆういち)

西城森林事務所は、島根県の県境近くの庄原市に所在し、庄原市（旧庄原市、旧比婆郡西城町、東城町、旧甲奴郡総領町）を管轄区域とした国有林9団地（1706.68ha）及び官行造林地6団地（401.59ha）を管理しています。気候は、中国山地に影響を受けた内陸気候で寒暖差が大きく、冬季には雪が降り積雪が多めですが、管轄区域は豊かな自然、田園が多くを占め景色が良いところが魅力です。

また、庄原市と神石町高原町にまたがる帝釈峡国定公園周辺には、鍾乳洞「白雲洞」、寄倉岩陰遺跡などの自然や歴史を満喫できる観光スポットがあります。

当事務所では、最近では立木販売、造林事業を主に実施して来ましたが、令和7年度から倉造山国有林を対象に複数年にわたる森林整備事業（木材生産）として、保護伐（2.5ha以下の小面積皆伐）と間伐を組み合わせた施業を実施しています。当事業では、保護伐によって林齢が異なる林分をモザイク状に配置した森林へ誘導し、同時に間伐をすることで極力、裸地化を抑え、日光が入りやすい環境に改善することで下層植生の生育を促し、森林が持つ公益的機能の発揮を視野に入れた森林整備に取り組んでいます。そして、生産した木材を委託販売等するとともに、生産から造林へと一貫して施業を行うことで森林を更新する際の植付におけるコストの削減に努めています。

今後も事業を通して、持続可能な森林経営、健全な森林づくりに取り組んでいきたいです。



国史跡 寄倉岩陰遺跡



倉造山国有林で実施している森林整備事業

シリーズ 『国有林 最前線！』

ICT活用による業務効率化への取組について

～地上レーザスキャナ「アウル (OWL)」の実証～ 滋賀森林管理署

近年、局地的な集中豪雨が全国で発生しており、林道においても路肩崩壊や既設構造物の被災が各所で見られ、迅速な対応が求められます。林道の速やかな災害復旧を図るためには、各種資料作成を迅速かつ効率的に行うことが重要です。

このため、ICT技術の森林3次元計測システムOWL（以下アウル）を活用し、測量及び図面作成に要する時間や労力の削減を目的とした業務効率化の取組について実証を行いました。



① OWL計測状況

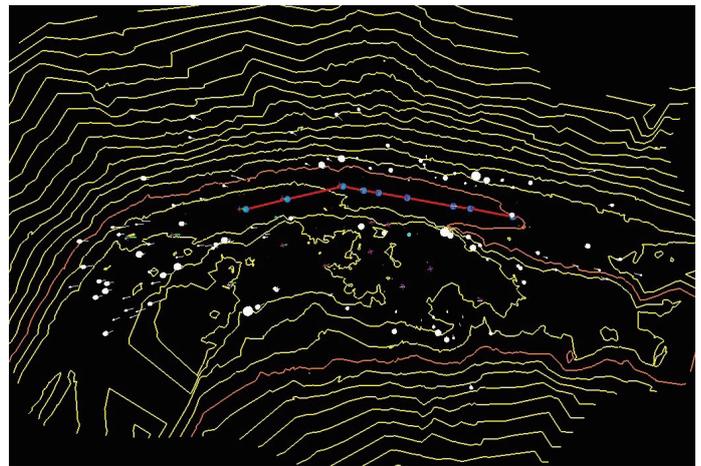
滋賀森林管理署で保有し、収穫調査に活用しているアウルと専用ソフト「Manager及びConstruction」を使用することで、従来のコンパスやトータルステーションを使用した測量と比較して計算や読取り間違いが生じにくく、測量技術を必要としないことから、場合によっては1人で計測も可能となり計測に要する時間及び労力の削減を図ることができました。

また、アウルは専用ソフトによる自動作図が可能であり、平面図では等高線を含む地形の描写ができるほか、縦断面図及び横断面図においても詳細な地形が図面に反映されるなど、作業効率の向上が実証できました。さらに、取得した3次元点群データは、任意の角度から現地の状況を確認することが可能であり、被災箇所の現地状況把握にも有効であることが確認できました。

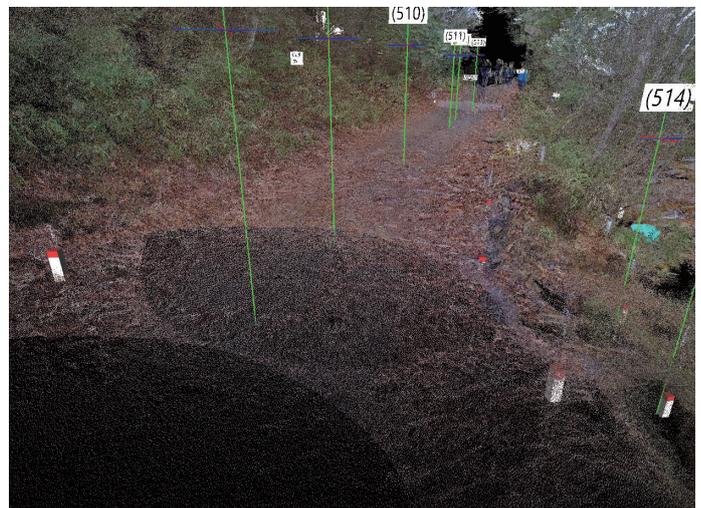
従来の測量手法との誤差を比較した結果においても、管理基準範囲内であり大きな差異は認められず、精度面においても問題ありませんでした。

このことから、災害申請要求資料の作成にとどまらず、治山・林道などの森林土木工事においてもアウルの活用は可能であり、業務効率化に有効であることが実証できました。

今後ICT技術を積極的に活用し、業務作業の効率化に取り組んでまいります。



② 作図平面 (青点：測点、黄線：地形等高線)



③ 取得3次元点群データ